

## 第 101 回資金管理業務諮問委員会 議事録

1. 日時:2023 年 5 月 31 日(水) 14 時 30 分～16 時 30 分
2. 場所:公益財団法人自動車リサイクル促進センター 第 1・第 2 会議室
3. 出席者:菅原委員長、井岡委員、大沼委員、高岡委員、村上(進)委員、村上(千)委員、山田委員  
以上 7 名  
その他 経済産業省・環境省担当官、公益財団法人自動車リサイクル促進センター役職員が出席
4. 議題:(1)2022 年度概況(報告事項)  
(2)2022 年度事業報告(報告事項)  
(3)2022 年度決算報告(報告事項)  
(4)2022 年度運用実績(報告事項)  
(5)2022 年度特預金の出えん等実績(報告事項)  
(6)2023 年度収支補正予算(諮問事項)  
(7)合同会議の報告書における提言内容への対応(報告事項)  
(8)資金管理業務諮問委員会における決算報告の在り方(報告事項)  
(9)監査室による資金管理センターに対する内部監査の結果(報告事項)  
(10)「合意された手続」の実施結果(報告事項)  
(11)ユーザー理解活動の取組状況(報告事項)

### 5. 議事録

#### (1)2022 年度概況(報告事項)

事務局から資料「第 101 回 資金管理業務諮問委員会」の 3～6 ページにて報告した。

#### <主な意見>

##### 【委員A】

今後の金利動向について言及すると、日銀の植田新総裁は、YCC(イールドカーブ・コントロール)については市場と対話をしながらゆっくりと修正するのではないかと、言われている。何かサプライズがない限りは、現状の金利水準が急激に変動することはないとの見方が多く、リスク管理の観点からも、JARCの運用方針については現状通りで問題ないとする。

#### (2)2022 年度事業報告(報告事項)

事務局から同資料の7～13ページにて報告した。

<主な意見>

なし

(3)2022 年度決算報告(報告事項)

事務局から同資料の 14～27 ページにて報告した。

<主な意見>

なし

(4)2022 年度運用実績(報告事項)

事務局から同資料の 28～35 ページにて報告した。

<主な意見>

【委員B】

GX推進法案が国会で成立したことにより、今後GX経済移行債が発行される見込みであるが、JARCはGX経済移行債を取得していくのか。

【事務局】

発行される年限や資金用途などを総合的に勘案して、取得するか否かについての検討を行っているところである。

(5)2022 年度特預金の出えん等実績(報告事項)

事務局から同資料の 36～45 ページにて報告した。

<主な意見>

なし

(6)2023 年度収支補正予算(諮問事項)

事務局から同資料の 46 ページにて報告した。

<主な意見>

なし

(7)合同会議の報告書における提言内容への対応(報告事項)

事務局から同資料の 47～49 ページにて報告した。

※48 ページは非公開資料に基づくため非公開

## <主な意見>

### 【委員C】

特預金の発生が減少する要因は幾つかあるが、増加する要因は乏しいと感じる。シミュレーションについては継続してほしい。

### 【委員D】

料金の割引を実施する場合、一旦、料金を下げて、すぐに料金の値上げをするという事は適切ではない。料金の割引は、一定の期間、継続して実施することが必要である。シミュレーションを実施すること自体が困難ななか、割引の期間と金額を設定することは非常に難しいが、次回の諮問委員会では多くのパターンのシミュレーションを用意するなど、丁寧に資料を作成してほしい。

### 【委員A】

本件については、前提条件により結果が大きく変わるので、幾つかのケースを想定したうえで提案してほしい。

また、事務局の説明では、次のシステム大改造は20年後を想定しているとのことであったが、今回の大改造のシステムが20年持つとは考えにくい。予測をすることは困難であるが、システムのライフサイクルが短くなる場合のシミュレーションも検討した方がよい。

### 【委員F】

合同会議の報告書が取り纏められてから2年弱の期間が経過したが、自動車メーカーのリサイクル収支の黒字額が減少していること等、その頃とは状況が変化していると思う。シミュレーションは多くのパターンを用意した方がよいと思うが、場合によっては、逆に料金を値上げしなければならないということもあり得るのではないかと。

### 【JARC理事A】

ご提案いただいた内容を踏まえ、シミュレーションの作業を進める。特預金の発生額の見積もりに際しては、新たな発生事由となる「20年時効」による発生額の予測や、今後の金利の動向の見立てが必要となるが、いずれも不確実性の高い事象である。また、留保すべき特預金の見積もりにおいては、大規模災害への対応等の観点の検討も必要であると考えている。次回の諮問委員会では、精度を高めたシミュレーション結果をご提示したい。

### 【経済産業省】

特預金の残高が必要以上に積み上がっている、というような印象が間違いなら払拭する必要があるので、シミュレーションを実施することは大事であると考えている。納得感が得られるものとなることを期待する。

### 【環境省】

本件については、メーカー負担を低減することに対して、今後、ユーザー負担をどのよ

うに低減するののかというバランスが求められると考える。ユーザーに対する料金の割引により、どのようなアウトプットが可能となるのかということが一番大事であるが、自動車リサイクルの関係者間の費用負担の在り方という観点からも、引き続き検討してもらいたい。

- (8) 資金管理業務諮問委員会における決算報告の在り方(報告事項)  
事務局から同資料の 50～52 ページにて報告した。

#### ＜主な意見＞

##### 【委員E】

そもそも企業体が財務諸表を作る目的というのは、それを利用して経営判断や投資の意思決定をするということにある。投資の意思決定をする根幹たる財務諸表に間違いがあってはならない、又は、不正があってはならないため、企業体は監査法人によるレビューや監査を受けている。

一方、JARCの場合は、作成する財務諸表により投資家が投資をする対象でもなく、経営の意思決定をするわけでもない。JARCの財務諸表や決算報告資料は、非常に丁寧に作成されているが、それを利用している方が実際にいるのかどうかということになると、個人的には殆どいないと考える。

しかしながら、年間における資金の動きや、年度末時点での財政状態については、もちろん確認する必要はある。従って、年に1回は決算報告を行う、というのがあるべき形であると考ええる。

##### 【委員D】

JARCは、年度を通じて財政状態や資金フローが大きく変動するような組織ではないので、決算報告の頻度を減らすこと自体については、委員Eと同じく、基本的には賛成の立場である。それが半期に一度なのか、年度で一度なのかということについては、もう少し他の委員のご意見も伺うべきであると考ええる。JARCは、特預金のような特殊な資金を保有するため、全く報告をしなくてよい、ということにはならない。

また、サステナビリティや中長期の運営に関わる報告については、できる範囲で徐々に開始すればよい。そもそも、JARCは一般の民間企業とは異なる特殊な法人であるので、サステナビリティとの向き合い方も民間企業とは異なるはずである。他方、このような報告を何もしないということも、今般の情勢を踏まえるとあり得ないとも考えられる。報告内容については、ゆっくり検討すればよい。

##### 【委員A】

企業のビジネスリスクを背負っている株主に対する決算報告の頻度ですら見直しが行われ、簡素化の方向にある。JARCの場合は、株主のような対象がいる訳でもない。そのような観点から、決算報告の負担を減らすのは自然であると考ええる。

今後は、サステナビリティの開示というような新たな作業量も増えていくかも知れないが、全体的なバランスをとる意味でも減らせるところは減らすという方針でよい。報告

の頻度については、4回という回数から一気に減少してしまうことが適切でないということであれば、中間の2回という選択肢でもよいと考える。その場合においても、将来的には年に1回でよいと考える。

【経済産業省】

決算の回数を2回又は1回とする場合は、資金管理業務規程の変更についての大臣認可が必要となる。その場合は、株主のような対象がいる訳ではないJARCの決算の回数を減らす理由について、業務効率化という観点以外の説明も検討して頂きたい。

(9) 監査室による資金管理センターに対する内部監査の結果(報告事項)

監査室から同資料の 53 ページにて報告した。

<主な意見>

なし

(10) 「合意された手続」の実施結果(報告事項)

監査室から同資料の 54～55 ページにて報告した。

※資料 6\_合意された手続実施結果報告書は非公開資料に基づくため非公開

<主な意見>

【JARC理事A】

今回の不備事項は、いずれも軽微な事務ミスであるものの、小さなほころびが大きな問題に繋がることもあるので、重く受け止め再発防止の徹底に努める。

(11) ユーザー理解活動の取組状況(報告事項)

広報・理解活動推進部から別冊「(報告)ユーザー理解活動の取組状況」にて報告した。

<主な意見>

【委員C】

小学生などをターゲットとした施策に工夫が見られる。特に、エコプロで展示されていた「子供メッセージカー」の卒業式というアイデアに感心した。

以上